

Winny?? Winny!! Winny!?

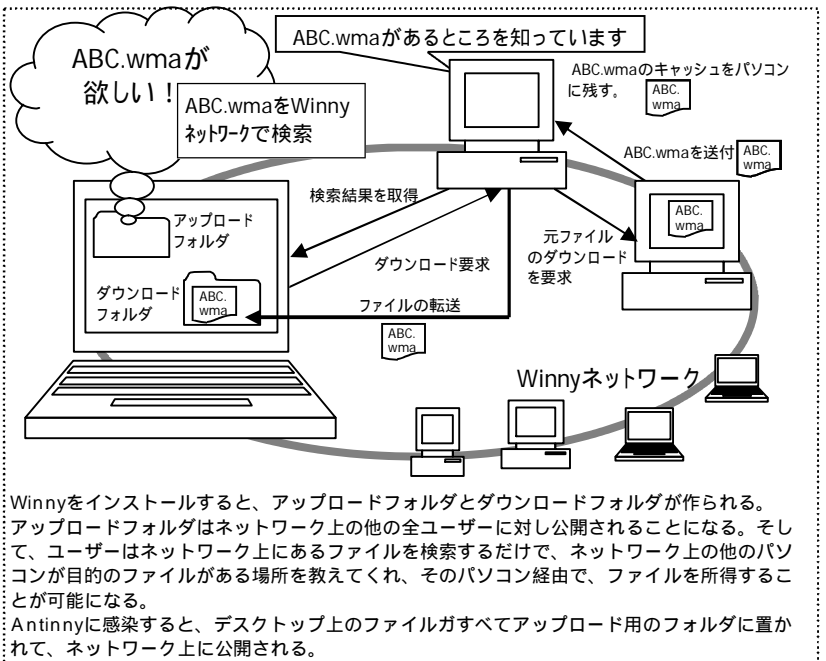
Winny (ウィニー) による情報流出はなぜ起こるのか?

ファイル交換ソフト「Winny (ウィニー)」が原因の情報流出が後を絶ちません。NTT東日本、TBS、海上自衛隊、愛知県警、関西電力... 挙句の果てには子供たちをあずかる学校関係まで。有名企業や組織が、WinnyとWinny上で暗躍するコンピューターウイルスに振り回されています。過去1年に新聞紙面上を賑わしたWinny事件だけでも50件を大きく上回ります。しかも、これらが**氷山の一角**にすぎないことは明らかです。

実は、Winny上での情報流出は2年以上も前から起こっていました。これは、2004年に発見された「Antinny.G」というウイルスが引き起こし、以後Antinny (アンティニー) の亜種や変種が次々と出現しています。これらのウイルスによる**“無法”ともいえる状態が今も続いています**。このウイルスは、Winnyネットワーク上でのみ感染を広げます。Antinny.Gの場合、感染すると、Windowsのデスクトップ上のファイルや、パソコンに登録しているユーザー名や組織名などを勝手に公開。他のWinnyユーザーが自由に見られる状態にしてしまいます。結果、感染したユーザーの個人情報やWinnyユーザー間で流通し、どんどん広まっていくことになります。またAntinnyウイルスが持ち出すのは、テキストファイルだけではなく**仕組み上**

んな種類のファイルでも流出させることが可能です。**社外秘情報**を収めたWordファイル、**企業の会計情報が記録されたExcelファイル**など、ファイルの種類は関係ありません。もちろん画像ファイルも例外ではありません。これらの話題がロコミで広がり、『のぞき見趣味』のWinny利用者が増えていきました。そして、そのユーザーがウイルスに感染し、更に**プライベートな情報や企業の貴重な情報が流出...**という悪循環に陥ることになるのです。これが今回の事件の根底にある問題です。

またWinny事件のもう一つの特徴が、情報流出の原因となったパソコンの多くが私物だった事です。個人的な興味で、私物パソコンにWinnyをインストールし、そのパソコン上で業務をこなした結果、企業や組織の社外秘情報、顧客情報等がWinny上に流出してしまいました。一連の事件でユーザーが被る決定的な痛手は、**“流出した情報を取り戻すことができない”**ことです。削除しようとしても、数十万人ともいわれるWinnyユーザーの誰が情報を取得したのかを知るすべはありません。元ファイルを消し去っても、何処かのWinnyユーザーがその情報を持っている限り、半永久的にWinnyネットワーク上で流通し続けることになるのです。



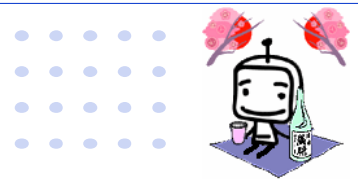
組織内でのWinny利用を阻止するために

個人間でファイルを交換し合う行為自体に**違法性はありません**。唯、Winnyネットワーク上では、著作権を侵害したファイルが多数流れています。利用者による相次ぐ情報流出をどうすれば防ぐことができるのでしょうか? 答えは簡単です。**Winnyを使わない**これだけです。現在の惨状から見て、Winnyを使うことは非常にリスクが大きいと言わざるを得ません。違法か合法かなどに関係なく、とにかく使う事のリスクが大きすぎる。これが現在のWinnyなのです。

企業においては、管理者がどんなに「Winnyを使うな」と警告しても、悪意があるかないかは別として、**規則を破る従業員は必ずいます**。こうした場合、ルールを作り、警告を発した上で、更にセキュリティソフトウェアなどが提供する対策ツールを利用します。多くの対策メーカーが、企業内のパソコンでWinnyの利用を制限したり、Winnyを削除するためのツールを提供しています。尚且つ「企業の重要なファイルを持ち帰らない」「私物のパソコンを業務で使わせない」という**ルールを徹底するしか策は無い**でしょう。また各部署で担当者を決め、重要ファイルの管理を徹底し、従業員が勝手に重要ファイルを持ち出すことの出来ないシステムを地道に作っていく。そして重要ファイルは必ず暗号化して保存するという策もあります。

ルールを作り、従業員がそのルールを順守しているかをチェック。ファイルに対するアクセス管理や暗号化を有効に使い、大切な情報が流出することを可能な限り防ぐ。**Winny対策とは、すなわちセキュリティ対策の基本を忠実に実行することに他ならない**のです。(誠)

対策メーカー アップデートテクノロジー インターネットセキュリティ システムズ
クオリティ シマンテック ネットエージェント ハンモック



お問合せはこちら

株式会社 アイ・シー・キューブ
〒310-0021
水戸市南町3-3-43 小林ビル5F
TEL 029-228-0116
FAX 029-233-0882
URL <http://www.ic3.co.jp/>
mail: info@ic3.co.jp

担当:

大好評セミナー、次回は5/15
『成功する中小企業の情報管理』
<http://www.ic3.co.jp>
「セミナー案内」でご確認ください